

# 平成23年度 北斗市立大野中学校 学校改善プラン

- I 実施期間 第Ⅰ期 平成22年10月 ～ 平成23年 3月  
第Ⅱ期 平成23年 4月 ～ 平成23年10月

## II 生徒の実態（平成22年度全国学力・学習状況の結果から）

- (1) 国語では、「自分の考えを説明する」問題の正答率が低く、年々増加していく傾向にある。また、長文読解に対する苦手意識が高い。インターネットを通して瞬時に自分が知りたい情報を得る技術には長けても、じっくりと文章を読むことを億劫がる傾向にある。国語のみならず他の教科においても、じっくり文章（テキスト）を読み、考え、自分の考えを表現（発表）する時間を確保することが必要である。
- (2) 数学では、数と式の領域における「知識・理解」と「表現・処理」（特に、負の数の概念や1次および連立方程式の解や解法、等式変形など）についての技能は定着している傾向が見られたが、図形の領域における「表現・処理」や数の領域での「見方・考え方」（特に、比例と反比例の意味や証明の意義、数に関する問題を文字を使っての説明、考察）で無回答が目立つ。ただ、昨年度の改善を踏まえた取組から、1次関数の変化の割合とグラフなど、ともなって変わる2つの量の関係を表や式に表す技能で一部改善が見られた。
- (3) 夢や目標を持ち、自己肯定感を持っている割合は、全国平均と比べても高い。そして、困難なことでも挑戦しようとする気持ちを持っている生徒も多い。ほかの項目と比べて顕著なのは、平日にテレビを見ている時間の多さである。3時間以上みているという生徒が半数を超えており、全国平均と比べても20%以上高い。テレビをつけっぱなし（見続けている）の状況もあることが推察できる。また、平日にテレビゲームをしている時間や携帯電話を使っている時間も、全国平均と比べても約1時間多い。予習をしている生徒は半数近くいる。苦手な教科に取り組んだり、テストでまちがったところを家庭学習で見直すことは少ない。家庭では、塾を利用して予習を中心に取り組んでいる傾向が強い。しかしながら、自分の苦手なところや理解不足に応じて計画的に学習をすることが上手く出来ていない。

## III 目標

- ・ 生徒が関心を持てるような授業づくりを行い、基礎・基本の確実な定着を目指す。また、学習意欲を高め、学習習慣づくりのための指導・援助をする。（学習計画表・教科相談日・長期休業中の学習会・・・実施済み）
- ・ 話し手を意識した聞き方（傾聴する）、受け手を意識した話し方（他者に伝えるにふさわしいことばを選ぶことや声の大きさ）、目的に応じて文章を書く力を身に付けさせるために、各教科の指導を始め、全ての教育活動を通して繰り返し指導し習熟させていく。
- ・ 数多くのメディアに囲まれ、情報があふれているなかで生活しているので、どの情報が正しく、またどの情報が誤りか、正しく価値判断して取捨選択し活用する活動を、教科における学習や生徒指導の中に取り入れていく。

## IV 改善方策

### 1 学校経営を改善する具体方策

- 学校課題に対応した研究と実践の充実
- 平成24年度から始まる新しい教育課程編成を見通した計画づくり。
- 保護者アンケートや学校関係者評価を生かした学校評価計画の工夫改善。

### 2 学習指導を改善する具体的方策

- 「学習意欲を育てるための授業研究」の実践と深化
- 見通しを持って取り組める授業題材の工夫（題材導入の工夫等）を図ることで、基礎的・基本的な学習内容の定着をめざし、同時に学習意欲を育てる。
- 言語活動を活発化させるような工夫を目指した指導案づくり。（具体的には指導案の本時の項目に「言語活動に関する指導上の留意点」を設定する。）

○教科相談日の設定

- ・月3回設定し、学習に関する生徒個々の疑問・悩み等を解消・軽減を目指す。(学習方法のアドバイスも含む)

○効果的・効率的な指導体制の充実

- ・TTのあり方の工夫改善
- ・習熟度別学習指導の工夫改善
- ・教科部会の充実(授業交流も含む)
- ・生徒による授業評価の実践継続(全教科で)
- ・長期休業中の全学年での学習会の設定(形態、内容、期間は各学年団で協議)

○その他

- ・今年度の国語と数学の余剰時数を使い、現2年生にそれまでの学習成果を確認させる意味で、今年度の学力・学習状況調査問題を活用した指導を行う。
- ・新年度から入学時の生徒の学力の実態を把握するため、1年生に4月の実力テストを実施し、その結果を各小学校へお知らせする。(小中の連携した学力向上を目指して)

○全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた具体的指導事例

【国語】説明的文章教材で「読むこと」「書くこと」の力を付けるために

:基本的に1年生で扱う内容だが、どの学年でも取り扱うことが可能である。

<授業例(1)> 必要性を感じて「要約」する授業～複数の資料を比較して読み、自分の考えを述べる～

- ◎「新聞に投書文を書く」ために、コラムや社説を読む授業を設定。
- コラムを読んで感想・意見を書く。
- 新聞記事・コラムを比較して読み、自分の意見を述べる。
- コラム・社説を読んで内容を理解し、要約する。
- コラム・投書欄から文章の構成を考え、投書文を書く。



○様々な資料から情報を読み取り、自分の意見を書く。

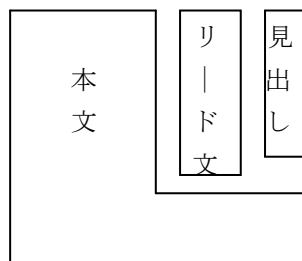
(知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力等の育成) ⇨ 朝の会の1分間スピーチ等にも応用できる。

<授業例(2)> 新聞のリード文を作成する授業

- リード分を空欄にした新聞記事を教材として用意する。
- 「見出し」と「本文」を参考に「リード文」を書く。
- 各自のリード文を比較し意見交流するとともに、新聞のリード文と比較する。

※「リード文」は記事の要約なので、「要約」する目的を持たせることができる。 ⇨

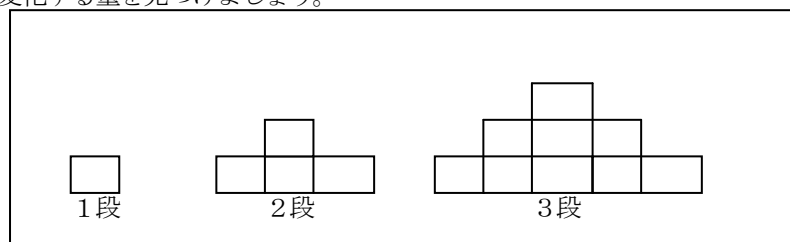
社会科のNIE(新聞活用教育)にも活用できる。



【数学】数の領域の「見方・考え方」の比例・反比例、1次関数を応用して

<問題例> 「関数  $y = ax^2$  」【C 関数(1)】⇒3年生における弾力的な指導

下の図のように、1辺が2cmの正方形を使って、段数を増やしていきます。段数が増えることにより、変化する量を見つけましょう。



【関連】第1学年「比例、反比例」

第2学年「一次関数」

伴って変わる二つの数量の変化や対応を調べることを通して、関数関係を見だし表現し考察する能力を高めることにより、関数  $y = ax^2$  を考察できるようにする。

<主な数学的活動>

- ・具体的な事象の中から二つの数量について、**2乗に比例する関数を見だし、説明する。**
- ・表、式、グラフを相互に関連付けながら、関数  $y = ax^2$  の**特徴を見いだす。**
- ・いろいろな関数関係について、**表やグラフを用いて考察する。**

(参考) 長崎県教育委員会 「新しい学習指導要領に対応した中学校国語科授業のポイント」  
北海道教育庁学校教育義務教育課 「平成21年度中学校教育課程編成の手引き」

### 3 地域・家庭との連携

#### ○家庭との連携の強化

- ・学年懇談会や家庭訪問などの機会を通して学校と家庭が情報の共有化を推進する。
- ・生徒の生活リズムを把握し、改善のとりくみや携帯電話の使用について啓発していく。
- ・情報教育に関する啓発。

#### ○地域との連携

- ・学校通信を地域の公共施設の窓口付近に設置し、広く地域の方々に情報を発信していく。  
また、随時更新したホームページもPRしていく。
- ・地域行事等への積極的な参加を奨励し、あいさつ運動やふれあい活動を通して生徒の健全育成を図る。
- ・職業体験学習や、ボランティア活動(リングプル回収やボランティアサークルの活動等)を通じて、地域とのつながりを強固なものにする。

## V 実施計画

月 日	計 画 内 容
平成23年 4月上旬	*学習の手引き作成・配付(全学年) *各種通信の発行 *校内研究体制の確立と推進内容・日程の確認 *年間指導計画とTTによる指導計画の確認・見直し *選択教科(習熟度別学習)における適切な選択の指導
4月下旬	*習熟度別学習指導のあり方の工夫改善協議 * <u>新入生の入学時の実力テスト実施(実態の把握)</u> *全国学力・学習状況調査の実施
5月下旬	*生活リズムの実態把握(全学年)
6月上旬	*学年懇談会での情報の共有と啓発活動
6月中旬	*定期教育相談を活用した生活リズムの見直し指導
6月下旬	*期末テストに向けた家庭学習の定着化
7月中旬	*長期休業中のプランニング指導
9月中旬	*全国学力・学習状況調査の分析
10月下旬	*生徒による授業評価の実施・分析(全教科) *生活リズムの実態把握(1・2年生)
11月中旬	*北斗市研究集会・渡島教育研究大会への参加
12月中旬	*長期休業中のプランニング指導
2月上旬	*校内研究のまとめと指導方法の工夫改善の検証

## VI 評価方法

- (1) 授業観察記録の蓄積
- (2) 校内研究による検証
- (3) 生徒による授業評価の実施と分析(全教科)
- (4) 学校評価、保護者アンケートの実施と分析